

# 学生アンケートに見る 高等学校における特別活動の実態 (1)

山本 明 利

北里大学理学部

## I. 特別活動論の受講生対象アンケート

本学教職課程センターでは3年次生を対象に「特別活動論」を開講している。受講する学生は理学部、看護学部、海洋生命科学部および獣医学部の教職課程履修者で、それぞれ3年次15コマの講座である。これらのうち、十和田キャンパスで学ぶ獣医学部の学生を除く3学部の受講生を対象に「中学・高校時代の特別活動を振り返るアンケート」を毎年実施している。

本学の教職課程に集う学生の出身地は、地元神奈川や東京が比較的多いが、北は北海道から南は沖縄までほぼ満遍なく分布しており、出身高校の設置者も都道府県・市町村立と私立が適度な割合で混じっているため、広域にわたる平均的な統計データを得ることが期待できる。出身校の重複もほとんど見られない。

対象となる学生数は毎年70名前後と多くはないが、年々のデータを蓄積していくと傾向が見えてくるのではないかと考えている。また学校を対象としたアンケート調査に比べ、建前ではない生徒目線の、より実態に近い実施状況のデータが得られることを期待している。

本稿では第一報としてこれまでに実施したアンケートの概要と、ラフな集計結果を報告し、今後の研究の指針としたい。

## II. 学生アンケートの内容と調査対象者

高等学校の特別活動は、ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事の各内容から構成されている<sup>1, 2</sup>。実施したアンケートでは、このうち学校行事とホームルーム活動を取りあげ、以下のような質問項目を設けた。

- ① 出身高校で実施されていた学校行事（該当するものすべてに○をつける）
- 遠足 生活合宿 修学旅行 社会見学 文化祭 体育祭 水泳大会 合唱大会  
球技／スポーツ大会 マラソン／駅伝大会 研究発表会（全校または学年単位）

- ② 上記以外の特色的学校行事（自由記述）
- ③ 出身高校で実施されていたLHRの内容（自由記述）

アンケートではこれらと合わせて、出身校名、学校の設置者（公立・私立）、校種（高等学校か中等教育学校／中高一貫校か）、課程（全日制、定時制、通信制）、学科（普通科、専門学科、総合学科）を回答してもらった。

調査対象とした受講生は2015年度の3年次生（理学部46名、看護学部12名、海洋生命科学部15名、計73名）と2016年度の3年次生（理学部33名、看護学部6名、海洋生命科学部21名、計60名）の総計133名である。ちょうど学習指導要領の変わり目の年次を含むが、今時改訂にあつては特別活動に関する大きな変更はなかったので、高等学校卒業年による区別は行わず、そのまま合算し統計処理をした。

なお、調査対象者の出身校の分類内訳は以下の通りである。

設置者別：都道府県市立 74校、私立 59校

校種別：高等学校 91校、中等教育学校／私立中高一貫校 42校

### Ⅲ. 学校行事の実施状況

学校行事については、学習指導要領第5章の第2の〔学校行事〕の2「内容」に、次の5種類の行事が示されている<sup>1, 2</sup>。

- (1) 儀式的行事
- (2) 文化的行事
- (3) 健康安全・体育的行事
- (4) 旅行・集団宿泊的行事
- (5) 勤労生産・奉仕的行事

これらのうち、通常どの学校でも実施される入学式・卒業式などの儀式的行事については調査対象としなかった。また、私学において建学の理念のもとに実施される宗教教育に関わる行事は、公立学校との比較ができないので質問から除外した。また、集団的行事を行っていない通信制の学校のデータは除外して統計を行った。

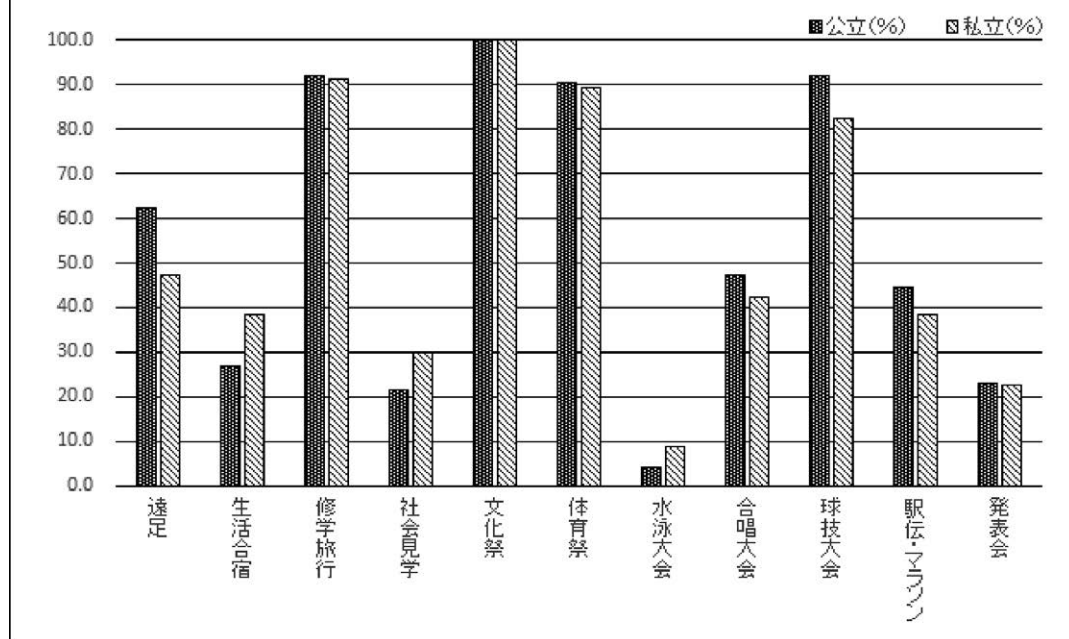
まず、設置者別に集計した結果を表1および図1に示す。表1は実数で、図1は学校数に対する比率（実施率）を百分率で示した。興味深いことに、都道府県市立か私立かという設置者による傾向の違いはほとんど見られない。建学の理念を掲げる私学の特色がもつと出るかと予想したが、意外な結果だった。公立・私立を問わず、学校行事の国民的イメージはほぼ固まっているということだろうか。互いを意識する結果、横並び化が進んだとも考えられる。

個別の行事を見ると、文化祭は調査対象の全校で例外なく行われており、これに次いで修学旅行、体育祭が約9割の実施率で並ぶ。文化祭、体育祭、修学旅行が定番の三大行事ということになる。修学旅行は、個人旅行が手軽になった今日、その実施の意義や高額の

表1 設置者別学校行事実施状況 (131校中)

	遠足	合宿	修旅	社会	文化祭	体育祭	水泳	合唱	球技	駅伝	発表	学校数
公立合計	46	20	68	16	74	67	3	35	68	33	17	74
私立合計	27	22	52	17	57	51	5	24	47	22	13	57

図1 設置者による学校行事実施率比較



費用負担の是非を問う声も少なからずあるが、未だ学校現場においては根強い人気があるようである。

球技大会／校内スポーツ大会は、学期末定期試験後などに、職員の成績処理の時間を確保する目的で、授業時間を割いて行われる場合が多いと推測されるが、これも約9割の学校で実施されている。

生活合宿は高等学校入学直後など初年次の早期に、オリエンテーションを兼ねて、環境適応と集団作りを促進する目的で行われる学年・学級単位の合宿である。事前準備等の負担が大きいため実施率は高くないが、教育効果が高いとして一定の人気があり、特に私学での実施率が比較的高い。

学年や学校単位での研究発表会は、総合的な学習の時間の総括として、あるいはスーパーサイエンスハイスクール (SSH) などの取り組みの一環として行われることが多く、増加傾向にあると推測される。次期学習指導要領で強調されると考えられる「アクティブラーニング」にも結びつけやすい行事であるため、今後の変化に注目していきたい項目である。

「健康安全・体育的行事」が比較的多い学校行事の中で、最も不人気なのは水泳大会である。今日、高等学校の保健体育の中での水泳の位置づけは選択種目であり、指導を義務

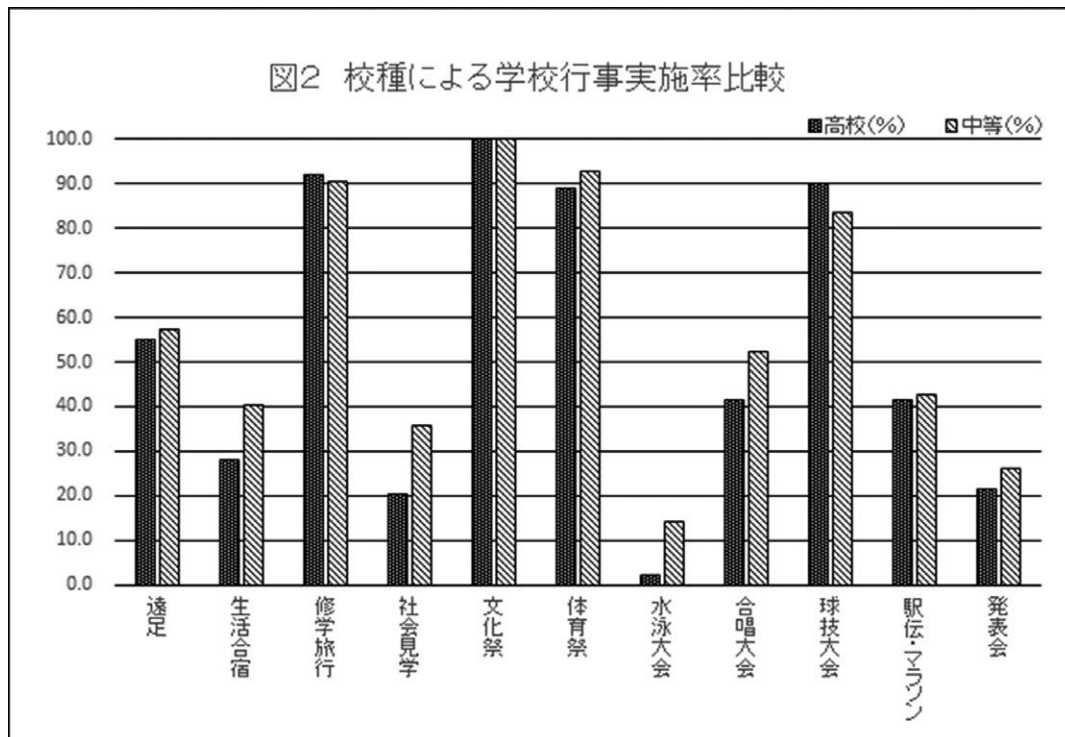
づけられているわけではない<sup>3</sup>。学校プールが設置されていない学校では校内で実施できないためとも考えられる。

しかし、やや古い文献だが平成8年の文部省体育局長通知「学校水泳プールの安全管理について」<sup>4</sup>に掲載されている、「学校水泳プール管理等状況調査総括表（国・公・私立学校合計）」によると高等学校の学校プール設置率はこの時点で57%であり、小中学校に比べて低い。この数字に比較しても、学校行事としての水泳大会の実施率は著しく低い。どうやら設備の問題ではなさそうである。こうしたところに現場の意識が現れているとも考えられる。

一方、調査結果を高等学校単独の設置校と中等教育学校／私立中高一貫校とに分けて、各行事の実施率を比較してみた結果が表2および図2であるが、両者には目立った差異は見られない。一貫校においても、中学と高校の行事は別々に行われているのかもしれない。

表2 校種別学校行事実施状況（131校中）

	遠足	合宿	修旅	社会	文化祭	体育祭	水泳	合唱	球技	駅伝	発表	学校数
高校合計	49	25	82	18	89	79	2	37	80	37	19	89
中等合計	24	17	38	15	42	39	6	22	35	18	11	42



#### IV. その他の学校行事

第2の項目では、第1の質問項目で選択肢に挙げた以外の学校行事があれば自由記述するように求めた。上記以外で一番多かったのは芸術鑑賞会で131校中15件（11.4%）、次いで地域清掃などの奉仕活動11件（8.3%）、勉強合宿9件（6.8%）と続いた。学校の特色が表れた他に比類のないユニークな事例もいろいろ収集できた。一部を以下に列記する。

- ・入学を祝う会、卒業を祝う会、予餞会
- ・野球やサッカーの大会応援、他校とのスポーツ定期戦、ボートレース、ヨット周航、武道大会、寒稽古、遠泳
- ・歩く会（徒歩き）、ロードハイク、ナイトハイク
- ・スキー合宿、サマーキャンプ、キャンプ
- ・百人一首大会、カルタ大会、読書感想コンクール
- ・海外派遣研修、ショートステイ、短期留学、語学研修、姉妹校交流、英語キャンプ、英語スピーチ大会、英語ディベート大会
- ・テーブルマナー講座、制服講座、心に火をつけるフォーラム
- ・動物園清掃、幼稚園訪問、小さな親切運動
- ・芋煮会、うどん作り、カップ踊り

詳しい内容が不明なものが多いが、公立・私立を問わず、各校の伝統、特色、地域性が感じられて興味深い。それぞれの学校が工夫を凝らし、生徒に多様な学びの機会を提供しているようすがよくわかる。機会があれば個別の事例取材もしてみたいと思う。

#### V. ホームルーム活動の実施状況概要

第3の質問項目では、高等学校のホームルーム活動について予備調査を行った。出身高校で実施されていたロングホームルーム（LHR）の内容を自由記述で回答してもらった。朝や放課後のショートホームルームは除外し、時間割に位置づけられたLHRの時間の主な使い方について回答するよう指示した。

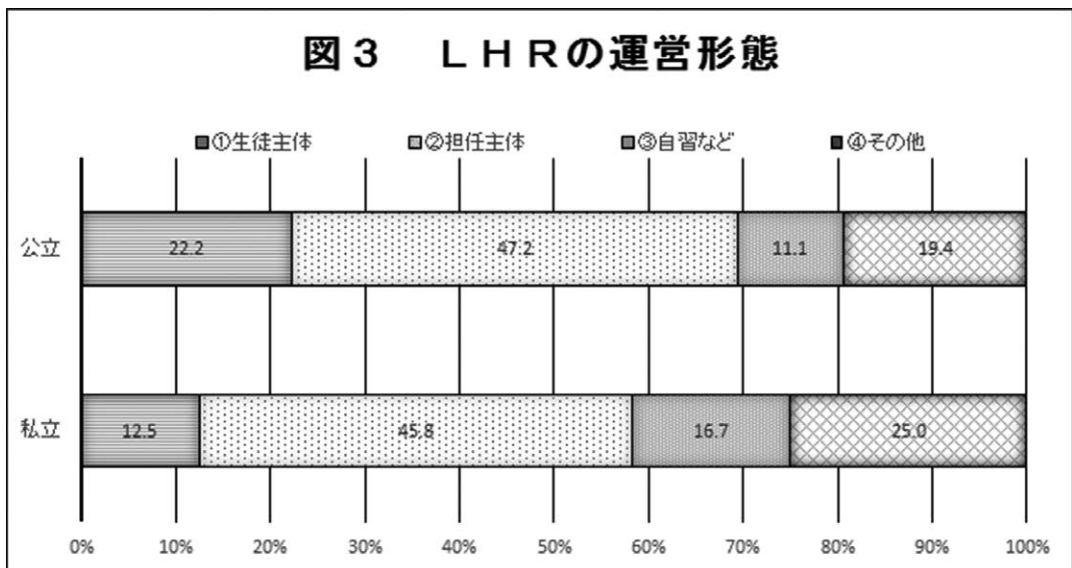
ここでの集計対象は2016年度の3年次生（理学部33名、看護学部6名、海洋生命科学部21名）、計60名である。設置者別内訳は、都道府県市立36校、私立24校だった。自由記述からの読み取りであるため、詳細が判別できないものもあり、予備的な集計にとどまるが、結果の概要は以下の通りである。

学年全体で講話や講演会を実施する場合や、進路指導や学校行事の準備あるいは事務的作業に使われる場合を除くと、LHR運営形態は大きく分けて次の3つに分類できる。

- ① LHR委員などの生徒の組織・役割分担があって、基本的に生徒主体で運営する。

- ② 主としてクラス担任が教室の前に立ち、講話や活動の指示を行う。
- ③ 補講や自習時間・自由時間として使われ、実質的なホームルーム活動を行っていない。

それぞれの運営携帯を百分率帯グラフで示したものが図3である。公立／私立の設置者別で比較した。①の生徒主体の運営による実施率は全体の2割弱にとどまり、特に私学では低い。公立／私立を問わず、②の分類が多く、LHRの運営がクラス担任の裁量にゆだねられている実態が見えてくる。③の分類のようにホームルーム活動とは言いがたい事例も少なくない。看過できない実態であると言える。



自由記述の内容を読むと、LHRで行われる活動の多くは進路指導がらみで、次いで道徳的指導や生活指導となっているが、生徒主体の活動が定着している学校では、討論やボランティア活動などの企画が生徒主体で進められている事例もある。

高等学校学習指導要領ではホームルーム活動の目標を「学校における生徒の基礎的な生活集団として編成したホームルームを単位として、ホームルームや学校の生活の充実と向上、生徒が当面する諸課題への対応に資する活動を行うこと」としていて、次のような活動内容を例示している<sup>1, 2</sup>。

- (1) ホームルームや学校の生活づくり
  - ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決
  - イ ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動
  - ウ 学校における多様な集団の生活の向上

## (2) 適応と成長及び健康安全

- ア 青年期の悩みや課題とその解決
- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立
- カ ボランティア活動の意義の理解と参画
- キ 国際理解と国際交流
- ク 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立
- ケ 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立

## (3) 学業と進路

- ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用
- ウ 教科・科目の適切な選択
- エ 進路適性の理解と進路情報の活用
- オ 望ましい勤労観・職業観の確立
- カ 主体的な進路の選択決定と将来設計

今回の予備調査の結果からみると、「(3) 学業と進路」に関してはホームルーム活動の中で十分な時間が当てられていると判断できるが、(1) (2) に関しては必ずしも十分に配慮されていない現場があるのではないかと推測される。

## VI. 今後に向けて

学生アンケートを通じての実態調査は、現場の意図を的確に反映したものとはなっていない可能性が高い反面、冒頭にも述べたように、生徒目線での教育効果を調べるには、より実態に近い結果が得られることも期待できる。

学校行事に関して言えば、調査に協力した学生の文章からは、各種の学校行事が強烈な印象と好感をもって受け止められ、青春時代の思い出を形成すると共に、彼らの人格形成に少なからず寄与している様子がうかがえる。

これに対して、ホームルーム活動に関しては、すぐれた実績を上げている学校もある反面、「ほとんど印象がない」と述懐する回答者もいるほど、教育効果を上げないまま放置されている現場もあるという、上下の大きな隔たりが浮き彫りになってきた。

今回の報告は予備調査としてのラフな内容にとどまるが、今後、アンケートの質問項目をより具体化して測定の精度をあげるなど、問題点を掘り下げたいことを試みたい。

## 参考文献

- 1 文部科学省「高等学校学習指導要領」（平成21年3月）
- 2 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成21年7月）
- 3 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」（平成21年7月）
- 4 文部省体育局長通知「学校水泳プールの安全管理について」文体体第二三二号（平成8年5月20日）

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/t19960520001/t19960520001.html](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19960520001/t19960520001.html)